

私有地共同利用柔軟に

小磯教授 中心市街地活性化で

釧路大セミナー



地域経済セミナーで報告を行う小磯前学長

地域活性化にも大きな役割を果たす共有資源（コモンズ）をテーマにした釧路

同利用が中心市街地の活性化にも必要との認識を示した。

公立大の地域経済セミナー

この日は約70人が参加

「持続可能な地域の発展を

し、小磯教授は「コモンズ

目指してーコモンズの再生

による地域の再生と創造ー

と創造という視点から」が

NPO法人苫東環境コモンズ

3日、同大で開かれた。同

ズの経験から」をテーマに

大の前学長で北大公共政策

報告。工業団地の苫東で民

大学院の小磯修二特任教

間会社が所有する緑地の森

授、間宮陽介京大名誉教授

林をNPO法人がボランティア

が土地利用や漁業権などに

シアで整備する共同利用の

ついてそれぞれ報告。小磯

実例を紹介した。

教授は、私有地の柔軟な共

釧路の中心市街地の活性化

化にも触れながら、「人口

減少の中で活性化は難しい

テーマ。いかに資源を活用

していくかだが、資源の価

値を阻むシステムが土地所

有権」と述べ、私的所有権

の強い日本は柔軟な土地利

用に難しい面もあることを

指摘。所有地の経済価値を

いかに高めるかではなく、

共同利用で地域資源として

の価値を高める「コモンズ」

の発想が重要な鍵との考え

を示した。

一方の間宮教授は「海は

誰のものか？」宮城県と岩

手島の事例にみる漁場の共

同利用と自治的管理」をテ

ーマに報告を行い、民間企

業への漁場開放は資源保護

に悪影響を及ぼす可能性が

あることを指摘した。

（戸田英吾）